

## 第1学年 算数科学習指導案

### 1 単元名「たしざん(2)」

### 2 単元について

#### (1) 児童の実態

#### (2) 学習材の価値

本単元は、10の補数関係に着目して、加数(または被加数)を分解して、「10といくつ」という2つの数の構成として数をとらえる考え方をを用いて、和が10以上になる数量関係に拡張させることがねらいである。この単元において、10にまとめていくよさを理解させることによって、加法の習熟を図るとともに、数え足しからの脱却も見据えた指導が可能である。

計算のしかたを理解する場面では、10のまとまりを作るのに、加数と被加数のどちらを分解してもできることを経験させたい。えで、どちらを分解するとより作りやすいか、速く計算できるかなどを考えさせることも習熟させるのに有効である。

本単元で扱う、和が10以上になる、繰り上がりのある加法の計算は、児童にとってかなり抵抗の大きいものであると考えられるので、数え棒、ブロックなどを用いた活動を十分させることで、計算の仕組みやその意味を児童自らの力で見い出させることが可能になると考えられる。

#### (3) 単元の目標

- 具体物を使いながら、進んで加法の計算をしようとする。 (関心・意欲・態度)
- 既習の加法や10のまとまりの考えを用いて、繰り上がりのある計算の仕方を考えることができる。 (数学的な考え方)
- 1位数と1位数の繰り上がりのある加法で、計算が正しくできる。 (表現・処理)
- 1位数と1位数の繰り上がりのある加法で、計算の意味や方法が分かる。 (知識・理解)

#### (4) 支援の重点

- 具体的な算数的活動の重視
  - ・ 念頭だけの活動でなく、具体物を使った活動する時間を十分に確保する。
- 『数学的な考え方』を育成する評価と指導
  - ・ 帰納的な考えを使って自ら決まりを見つけ、友だちとの交流の中で、数の見方も広げる。また、関数的な見方の素地を身につけさせる。
- 基礎・基本の定着のために
  - ・ カード練習やカードゲームをすることで習熟を図る。

### 3 単元の評価規準

| 関心・意欲・態度  | 数学的な考え方  | 表現・処理   | 知識・理解                              |
|---|--|---|------------------------------------|
| 1位数と1位数の加法で繰り上がりのある計算に進んで取り組み、その計算のしかたを考えようとする。 | 10のまとまりの考えを用いて、繰り上がりのある計算の仕方考えることができる。<br>1つの数を色々な数の和として考える。 | 1位数+1位数で繰り上がりのある計算を、加数または被加数を分解し10のまとまりを作って計算できる。 | 1位数と1位数の加法で繰り上がりのある計算の意味やその方法が分かる。 |

### 4 学習指導計画（全12時間…本時10/12）

| 小単元             | 学習内容   | 評価の観点 |   |   |  |
|-----------------|--|-------|---|---|--|
|                 |  | 関     | 考 | 表 | 知  |
| くりあがりのあるたしざん(7) | ●加法が用いられる場面を理解し繰り上がりのある加法の答えの求め方を考える。<br>●10のかたまりを作ればよいことを知る。        |       |   | ◎ | ●9にたす計算のしかたが分かる。   |
|                 | ●繰り上がりのある加法の計算で、10のかたまりの作り方を考える。<br>●10のかたまりを作るためには、加数を分解すればよいことを知る。 | ◎     | ◎ |   | ●10のかたまりを作るために、加数の3を1と2というように分解して考えることができる。<br>●加数分解による計算ができる。 |
|                 | ●被加数を分解することによって、10のかたまりを作る場合について考える。                                 | ◎     | ◎ |   | ●10のかたまりが作りやすいように考えることができる。                                    |
|                 | ●8+6について計算方法をいろいろ考える。<br>●10のかたまりを作る方法がいろいろあることに気づく。                 | ○     | ◎ |   | ●加数分解、被加数分解の考え方や、5と5を合わせて10を作るという考え方など、いろいろな方法で考えることができる。      |
|                 | ●いろいろな方法でたし算の計算をする。  |       |   | ◎ | ●繰り上がりのある計算が正しくできる。  |
|                 | ●加法の場面であることを理解し立式する。   |       | ◎ | ○ | ●加法の問題であることを判断する。  |
|                 | ●問題作りの活動を通して、加法の意味の理解を深める。<br>●自分の作った問題を発表する。                        | ◎     |   |   | ●進んでいろいろな加法の問題場面を想起して、問題作りに取り組むことができる。                         |
| カードれんしゅう(3)     | ●繰り上がりのある加法の計算カードを使い、計算練習をする。  |       |   | ◎ | ●繰り上がりの加法の計算が正しくできる。   |
|                 | ●計算カードを使ってゲームをし、計算に習熟する。   | ◎     |   |   | ●意欲的にゲームに取り組む。   |
|                 | ●答えが同じカードを集め、被加数と加数の関係を考える。（本時）                                      | ○     | ◎ |   | ●たし算カードを順序よくなれば、きまりを見つけることができる。<br>●1つの数をいろいろな数の和として考えることができる。 |
| だちめから(1)        | ●既習事項の理解を深める。  |       |   |   |  |
| チャレンジ(1)        | ●たしざんすごろくを通して加法の習熟をする。<br>●折り込みの計算ゲームをする。                            | ◎     |   | ○ | ●ゲームに積極的に取り組み、加法の計算に習熟する。                                      |

5 本時の学習

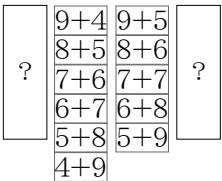
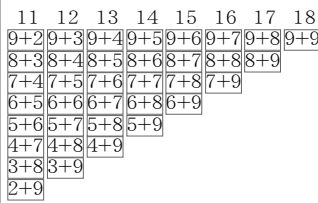
(1) 目標

- 答えが同じたし算カードを順序よく並べることを通して、被加数と加数の関係やたし算のきまりを考えることができる。

(2) 本時の主張点

- カードを並べ、きまりを見つける活動を通して、数が整然と並ぶ驚きをもとに、その美しさにも触れさせたい。

(3) 学習指導過程

| 過程   | 学習活動   | 児童の意識の流れ   | 指導と支援(○)・評価(●)  |
|--|--|--|---|
| つかむ<br>／   | 1 答えが「14・13」になるカードを集める。<br>・ 前時のカードゲームの続きとして行う。<br> | これで答えが同じカードが全部あるのかな。わからないな。<br>カードの並べ方は、どんな順番がいいかな。<br><br>「14」と「13」では、カードの数がちがうよ。<br>他のカードはどうなるのだろうか。   | ○ 前時のカードゲームの続きとして、同じ答えのカードを選び出させる。<br>○ 落ちがないかは、順序よくならべるとわかったことを、思い出させる。<br>○ もう1つ「12」と「15」のどちらをならべるかは、児童に選ばせる。                                   |
|  | 2 残りのカードをならべると、どうなるか予想する。  | 順々に、階段のようにならぶのだろうか。<br>答えによって、カードの数がちがうんじゃないかな。  | ○ 3つの列の並び方から、他の答えの列を予想させる。<br>(動かせるように、クッカーマット上に印刷したシートを敷いて)  |
| <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">                 答えが同じになるたし算カードをならべて、きまりをみつけよう。             </div> |  |  |   |
| ／  | 3 全部のカードをきちんと並べて調べる。<br>・ ペアで<br>                 | もとの数の変わり方とたす数の変わり方には、何か決まりがあるのだろうか。<br><br>・ もとの数が1へると、たす数が1ふえるよ。<br>・ たす数が1ふえると、答えも1ふえているよ。<br>・ 答えの大きさに、カードの枚数がちがうよ。答えが大きいとカードが減るよ。<br>・ カードが階段みたいに並んだよ。<br>・ 同じたす数が、ななめに並んでいるよ。 | ● もとの数を1減らしたら、たす数を1増やし、順序よく考えることができたか。<br>[考え方] (観察・発表・表現物)<br>○ きまりを見つけやすいように、ペアでカードを並べ、一緒に考えさせる。<br>● 並べたカードからきまりがみつけれられたか。<br>[知・理] (察・発表・表現物) |
| 深める  | ・ 気がついたことを発表する。  |  | ○ 自分できまりをみつけたという満足感を持たせたとともに、きまりの美しさにふれさせる。   |
| ／  | 5 見つけたきまりを、まとめる。   | カードを順序よく並べて、見つけたきまりを使うと、どこにどんな式が入るか分かるよ。   | ○ いくつかのカードを取り除いて、何があったか考えさせたり、カードの続きを考えられないか問いかけたりする。   |
| まとめる   |  |  |   |